

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

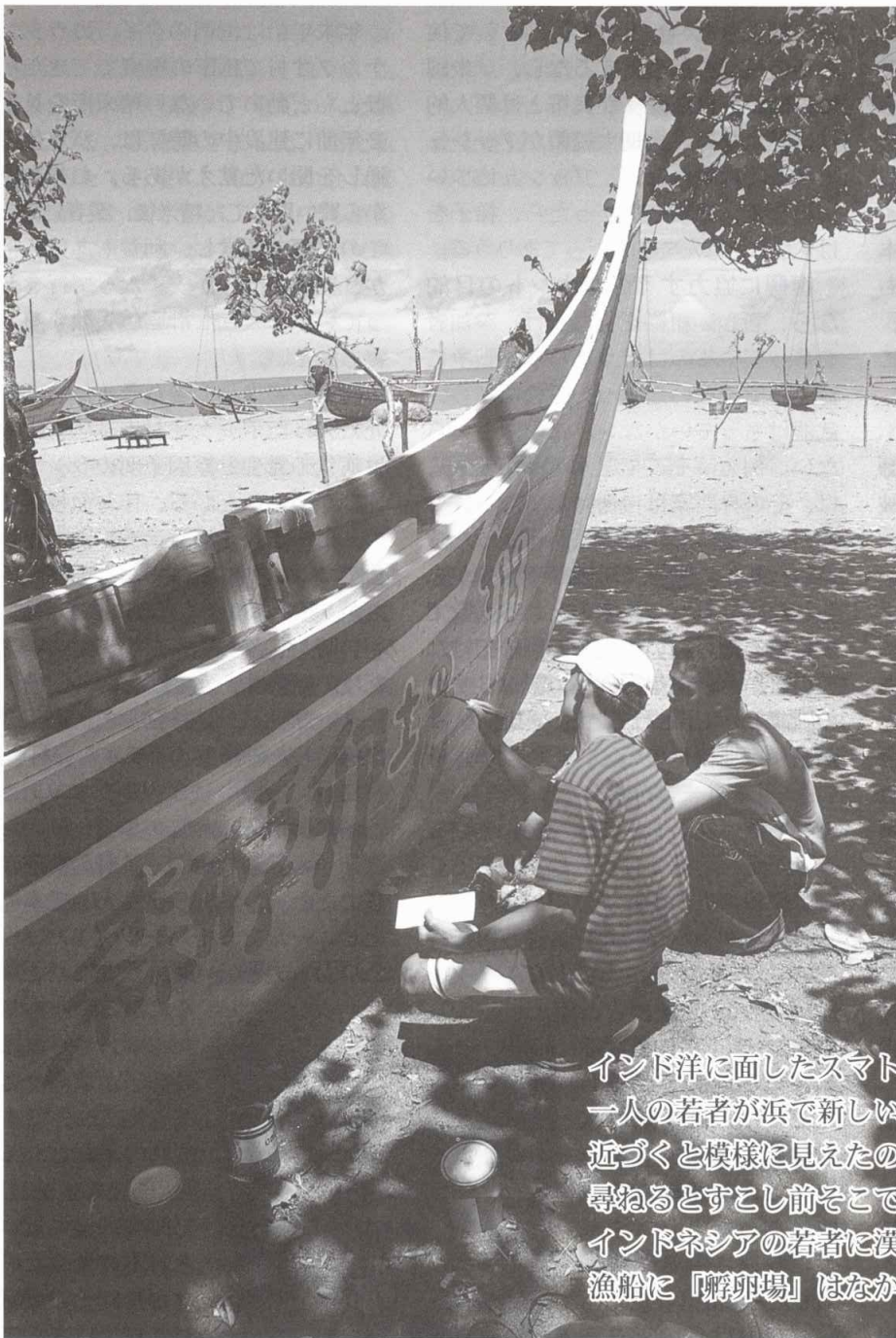
90

2004.3

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり (Peace) 健康づくり (Health) を担う人材をつくる (Human Development) 運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定 価：100円

- タイ・スタディツアーレポート . . . P.3
- ソディ通信34 . . . P.6
- 私たちが変わるための試み④ . . . P.7



インド洋に面したスマトラの漁村。
一人の若者が浜で新しい船にペンキをぬっていた。
近づくとも様に見えるのは「孵卵場」の文字。
尋ねるとすこし前そこで働いていたとか。
インドネシアの若者に漢字がカッコ良く映るのだろう。
漁船に「孵卵場」はなかろうけど。

インドネシア、西スマトラ州パリアマン 撮影 FUJINO T.

東西南北
問題解決
取組日記

1月×日

自衛隊がイラクにでかけてしまった

世界に困った状況があり、そこに手伝えることがあり、やれるのならしたい。国際協力にかかわるNGOに共通する究極の目的は平和に暮らせる社会をつくることにあると思う。そこに至る方法としてそれぞれの活動分野がある。だから、すべてのNGOがイラクに対して直接何かを行うことにはならない。とはいえ今の日本からの支援の仕方に対して、何もしなくても、もしくはは言わなくてもいいのだろうか。イラクの人々に対してだけでなく、日本のこれからについても大きな影響をもたらす今回の政府判断ではなかろうか。NGOにも今回の決定を支持するところもあるが、当会そして周囲の団体、人の中には異論が多い。

PHDの考え方は提唱者、岩村昇医師の広島での被爆体験が原点にある。被害者としての平和を語るだけでなく、太平洋戦争時の加害者としての立場を忘れずに、その行為を繰り返さないようにする。武力を伴う争いごとをなくす。そのために、起こる原因が何であって、そこをどうつぶしていくのか。めざすべき状態はそれぞれの日々の生活が程々に満たされていること。それは食べられ、住むことができ、生活環境、保健・衛生状態が整い、適度な医療、教育があり、人がお互いの権利を認め合う社会と言い換えられる。これを一度に全面的に実現することは難しい。だから私たちは「平和で健康な社会をつくりだす人を育てること」を掲げて国内外の事業を行っているわけだ。

PHD協会は今のイラクに対して直接何かをしてはいないが、「平和」についてあらためて考えることを皆さんに呼びかけることはできる。今の状況に対して、他人事感覚で、鈍感でいることはまずいと思う。

自衛隊がでかけることで、今、実現している日本の生活が守られるのなら、大賛成ではないけれど、否定もしない。とりあえず自分に火の粉が降ってこないから構わない。と思う人が多いのだ

ろうか。でも、そうやって進んでいく社会の先に何かあるのだろうか。そこを考えるときっかけを発信することもPHD協会の役割のひとつだろうと思う。アジア・南太平洋から招く研修生は自分のためだけでなく、地域やまわりの人のためを思って研修し、帰国後も活動に取り組んでいる。私たちが学ぶべきひとつはこの自分のためだけではないという姿勢ではないだろうか。

ただ反対では肯定する人たちから「代わりにどうする」「何もしないで済むのか」と反論がでよう。「イラクの復興に役立ちたい」と日本が国として何らかの役割を担うとするなら、「米国に追随して自衛隊」が良策とは個人的には思えない。次期大統領がブッシュであるとは限らない。ブッシュについていって、屋根にあがったら、梯子をはずされたなんてことだってありうる。

復興に協力するのがホントの目的なら、新しい組織を立ち上げ、参加者を募ってやるのはどうだろう。戦争に行くのではないと言ってるのだから、武器はもっていかない。迷彩服もいらぬ。例えばそこで給水活動が主ならば、その専門家は自衛隊員でなくてもいい。いろんな所属の人から募ったらいい。新しい組織で訓練が不十分かもしれないけれど、統率のとれる人数でまず始めたらいい。戦争の訓練ではないのだから。青年海外協力隊は3ヶ月の訓練で送り出されている。現地の人々が雇用を期待していて、それに応えるのなら、ますます自衛隊でなくていい。できるだけ安全なところを選んでいそうだから、ある程度の危険があることは理解の上、手を挙げてもらう。ニューヨークやパリでテロに遭う可能性だってあるのだから。JICAの人、NGOの人、企業の人、学生など、手を挙げる人がいると思う。そしてそこに、自衛隊の人も休職して行くのがいい。こんな組織なら事故はあったとしても故意に攻撃されることがあるだろうか。

「日本は今のところ（変える必要はないと個人的には思うが）憲法9条があり、軍隊は送れません（本来、存

在もしないはず）。でも、草の根の人々の平和のために、やれることはやります」と世界に向けてハッキリ言ったらい。もっとも目的が復興支援ではなく、「軍隊」を送ることにあるのなら、それをみんなで考えて決めなければいけない。

知り合いは「自衛隊イラク派兵差し止め訴訟」を起こしている。

1月0日

村づくり、農業、金儲け

年末年始は恒例のタイ。カラシン県ナカダオ村でIMFの融資でできたが、ほとんど動いていない精米所を見る。2年前に建設中の時には、バラ色の見通しを聞いた覚えがある。お米を農家から買い取って、精米後、業者に売る。この差額で運営し、利益もあげる予定が、売値のほうが安くなって行き詰まっている。大きな計画は失敗すると被害も大きい。

何度も報告してきたチェンマイから北に入ったボッケオ村のイチゴ。今年は病気の発生と原因不明のランナーの伸びが悪いことから、作付面積が4分の1に。これを補うべく、別の作物としてニンニク、玉ネギなどを植えていたが、イチゴほどの売値にはほど遠い。いい時から落ち込んだ際に対応できるだけの経験は十分ではない。心配。

メーサリアンに移動して、去年3月に帰国した研修生スラチさんの村へ。村に着くと黒いビニールでマルチされた畑が目に入る。町の業者に勧められた茄子の契約栽培で、7軒の農家がはじめたという。スラチさんも千本の苗とビニールで5千パーツ（1パーツ＝2.8円）の投資。果たしてこれでいけるようになるのかも気になるが、さらにはこの茄子が塩漬けされて輸出され、日本の漬物の素材となるらしいことにびっくり。ビルマ国境に近い村と日本の食卓とのつながり。その翌日訪れた村ではさらに驚きのできごとが。紙面が尽きたので、これは次号に。

総主事代行 藤野達也



第21回タイ・スタディツアー
レポート

不便で心地よい生活

笑いっぱい疑問いっぱい

コンケンのホテル。コンコンコン。「ジョギング行きませんか？」中川克敏さん（島根県、野菜農家）の声が目覚めた。12月23日から1月2日の日程で東北タイと北タイの研修生の村を訪ねる旅の2日目の朝。農家（当会の農業指導者）、英語・国際・看護学科の学生、元看護師と職員の総勢12人、20才から73才まで幅広い背景を持つ人たちが集まって、お互いの性格の違いを良い事として受け入れ、グループの中でそれぞれの役割ができていった。最初、不安そうだった表情が一気に和らいだのが2日日夜、カラシン県・バムルンさん（89年度短期）宅での夕食時。農民運動のリーダーという彼の話に刺激を受け、参加者たちは質問を浴びせた。他の研修生や村人も加わってひとしきり農業の話、それがいつしか宴会に。日・タイ歌合戦が始まり、ケユーンさんも（01年度）。日本側は童謡を大合唱。最後には泉嘉代美さん（愛媛県、養鶏農家）による踊り付きの炭坑節が飛び出した。これで旧知の友のような感覚になった。



滞在の中心は研修生や村人の家。茶碗に残った米粒は鶏の餌に、トイレと水浴びは井戸や雨水。暑いからスッキリしたいと頭や体を洗った後、誰かが「このシャンプーの泡、どこに行くの？」と言った。日本のように下水道や処理施設はないが、村人も使うのが当たり前になっている。他にも「ゴミ

収集の制度はないのにビニール製品が多い。燃やしちゃダメだよな？」「生活は大変と言いつつテレビはある。どれくらい稼いでいるの？」など、村の生活を見ると首をかしげることがいっぱい。研修生は日本でゴミや公害のことも学んだけれど社会の大きな流れは違う方向なのだ、と皆で考えこんでしまった。日本の製品も村にたくさん入っていて、しっかり荷担している。我が身を振り返ろう…。

自然に生きる

参加者の一人、佐藤栄利子さん（和歌山県、高校教諭）のレポートから。「大切にしていかなければならないことを見つけることができた。そのひとつは、「ナチュラルペース」。ニワトリの大合唱で朝を迎え、満天の星空を見ながら一日を振り返る。（中略）自然の中で、時間の流れに身を任せて自然に生きる。毎日の生活では忘れがちだけれど、ヒトが潜在的にもっている居心地のいい自然なペースを思い出したような気がした。（中略）特別なイベントを目の当たりにしたわけではないけれど、彼らの生活を垣間見て、今年のテーマは「和」だなあと考えた。村の人々の生活は、日本に住む私たちから見れば、決して暮らしやすいものとは言えないし、実際のところ、物質的には日本の方が豊かである。でも、地に足のついたその生活は、日本が手本にしなければならない世界そのものだった。」

素敵な人たちに出会って

福永英由子さん（兵庫県、幼稚園教諭）の感想。「カラシンで2日間お世話になり、チェンマイへ向かう為夜行バスに乗車。ここのロータリー迄村からわざわざ送っていただいたのでした。（村から何と8～9時間かけて！）ずうーっと手を振って、見送ってくれた姿に胸がキューッと鼻がツーンとなりました。この時、研修生と受け入れていたホストファミリーの方々との心からの信頼関係を感じたのでした。チェンマイではYMCAホテルに泊まり、きれいにシャワー。ベッドでゆったりぐ



っすり眠ることが出来ました。水が出て、ベッドがある環境にホッとしまっている自分に、少しがっかりして、先進国に住んでいると「慣れてしまっている事」が多いな、と改めて感じました。」

人間は自然の中にあることを自覚し、他人と関わることで生きていけるのではないのかな、と思う。

（寺田榮）

帰国研修生短信
（タイ）

トンスクさん（91年度短期）

2003年秋に亡くなったと聞き、家族を訪問。短期研修生としてサウェーさんと同年に来日、主に兵庫県の篠山で有機農業・農協等の研修を行った。帰国後は地域のグループ運営に尽力し、若手の取り組みを支えていた。お悔やみ申し上げます。

ノパドンさん（00年度）

2003年5月に結婚し、11月27日に第1子（女の子、ドラヤーちゃん）が誕生。



ケユーンさん

（01年度）

結婚したとの噂を確認。2004年1月に子どもが生まれるとのこと、既に誕生していることでしょうか。お連れ合いさんには会えず、残念。

21期生 10月中旬～2月中旬

昨年の4月（マウエさんは6月）に来日した21期生の研修も実質3月5日から始まるフィリピン比較研修旅行を残すのみとなりました。この一年、一度も大きく体調を崩さずことなくとて

も順調に研修を進めてきた3人は、今、これまでの研修のまとめと帰国後の活動について考えているところです。

(納堂邦弘)

◆東日本研修旅行◆ 11月19～30日

<福井県>美浜北小学校～美浜原発～光照寺～<岐阜県>国際ソロプチミストかかみ野～中濃教会～<愛知県>トヨタ自動車労働組合～人間環境大学～<岐阜県>まなびパークたじみ～<愛知県>アークス東海～長良川河口堰～<神奈川県>もみの木クラブ～PHD鎌倉～山崎小学校～<東京都>梅ヶ丘教会～全日本自動車産業労働組合総連合会～ロータリー米山記念奨学会～アークス仏教国際協力ネットワーク～恵泉女学院大学～<山梨県>山梨国際交流協会、山梨YMCA～山梨英和中学校・高校～<長野県>塩尻めぐみ幼稚園～松本教会～<岐阜県>国際ソロプチミスト高山～PHDひだの会

◆西日本研修旅行◆ 1月15～28日

<鹿児島県>鹿児島ロータリークラブ～かごしま有機生産組合～出水市交流会～だるま保育園～<熊本県>水保病センター相思社～地球緑化の会～<大分県>下郷農業協同組合～<福岡県>庄内町生活体験学校～福吉伝道所～高槻小学校～旭が丘会館～祝町小学校～アジアを考える会北九州～<山口県>梅光女学院高等学校～梅光学院大学～<島根県>瑞穂町交流会～<広島

ケンターウエ (通称マウエ) さん (ビルマ、女性、22才)

- 一 保育・保健衛生・農業研修
- 7. 東出雲町保健相談センター (島根県東出雲町)
 - 米田祝子 (アレンジ/滞在/八雲村)
 - 金本勉 (滞在/東出雲町)
 - 浜村愛子 (アレンジ/加茂町)
- 8. 西ノ島町家族会共同作業所ございな、シオン保育園 (島根県西ノ島町)
 - 大野光信 (滞在/西ノ島町)
 - 佐倉真喜子 (アレンジ/滞在/西ノ島町)
- 9. 小規模作業所ステップハウス (兵庫県高砂市)
 - 樋野泰弘・素子 (滞在/高砂市)
- 10. 兵庫県三木健康福祉事務所、三木市健康福祉部健康課 (三木市)
 - 光田弘・和子 (滞在/神戸市西区)
- 11. 渋谷富喜男 (神戸市西区)
- 12. 牛尾武博 (市川町)
 - 岩本衛・健二・真紀子 (滞在/市川町)

来日が2ヶ月遅れたマウエさんでしたが、今では一番達者に日本語を話し、研修の達成度もその遅れを全く感じさせない程です。

保健衛生に重点をおいて研修してはきましたが、村では農業がマウエさんの主な仕事。同じ村出身のスウェーデンさん(02年度、男性)と共有できる知識を得るためにも、有機農業の基本である土作りや平飼い養鶏と稲作、野菜作りを組み合わせた方法について学びました。

例えば、「せっかく家に牛を7頭飼っているのに堆肥を作らないで、

県>三良坂小学校～日影館高校～ハイヅカ湖畔の森～平和学習～広島YMCA～<島根県>木次町交流会～松江赤十字病院～<岡山県>千屋小学校～岡山御津キリスト教会～豊田小学校～行幸小学校～岡山YMCA・南北ネットワーク岡山～産業廃棄物学習～岡山備前ロータリークラブ

◆共通研修◆

旅路の里 (釜ヶ崎の歴史と現状/大阪市) 淡路島モンキーセンター (残留農薬の弊害等/兵庫県洲本市) 山口勝弘 (有機農業・果樹/南淡町) 明石協同歯科 (口腔衛生/明石市) 兵庫六甲農業協同組合 (協同組合/神戸市)

◆兵庫県内研修旅行◆ 2月19～22日

<八鹿町>但馬農業高校～但馬長寿の郷～<山崎町>栄栗郡連合婦人会～<高砂市>高砂にPHD研修生を迎える会、高砂市国際交流協会～500人委員高砂OB会、ココロクラブ高砂～<三木市>PHDボランティア"サンガティ"～岩村昇宅訪問～<春日町>中野宗嗣宅訪問～<篠山市>篠山ナマステ会～<社町>加東郡連合婦人会 <敬称略>

わざわざ高い化学肥料を買っているのはもったいないとわかった。稲作ではたくさん田植えをすればいいと思っていたが、2～3本の苗を十分に間隔をあけて植えた方が病気にもなりにくく、多くのお米ができることがよくわかった」そうです。

帰国後、「まずは家の農業を手伝いながら日本で学んだ技術を色々試してみたい。農業以外にも前に帰国した研修生たちのグループがしている米銀行(米や種もみの貸付を行う)等の活動にも参加し、保健衛生、特に栄養や虫歯のことは村の小学校で話したい」と抱負を語っています。

ただ、他の国と違いグループ活動が制限されているため、何をどうやって広めていくかについてはPHDもじっくりと長い目で一緒に考えていくつもりです。



ボカシ肥料を切り返すマウエさん(篠山市)

エルリナ (通称エリ) さん (インドネシア、女性、30才)

- 一 洋裁・保育・保健衛生研修
- 14. くらふと・ぎやらりー多田 (兵庫県芦屋市)
- 15. 三朝町役場企画観光課・町民課 (鳥取県三朝町)
 - 青木大雄、鈴木大輔、山田道治、安藤晃 (滞在/三朝町)
- 16. 高橋武子 (兵庫県三木市)
 - 福永隆昭・就子 (滞在/神戸市西区)
- 17. くらふと・ぎやらりー多田 (芦屋市)
- 18. 高橋武子 (三木市)
 - 福永隆昭・就子 (滞在/神戸市西区)
- 19. くらふと・ぎやらりー多田 (芦屋市)
- 20. 芦田安紀子 (芦屋市) <敬称略>

来日時、洋裁は全くの初心者であったエリさんでしたが、今ではいくつか苦手な作業があるだけで子供服、ワンピース、スカート、ズボン等ほとんど何でも一人で作れるまでになりました。原型の取り方も難しいですが、やはり洋裁の基本なのでしっかりと勉強。昨年度の研修生であったミミさんが勉強し忘れていた採寸のやり方もマスターしました。



「洋裁は本当に楽しいです」(芦屋市)

帰国後は、まず家族や親戚の服を作ったり、ミミさんとともに仕立て屋をする予定。その収入の一部を婦人会に入れ、ミシンの購入資金に充てて台数を増やせたら村の女性たちに教えていきたいと考えています。

と同時に、そういった帰国後の活動にとっても現実的なイメージも持っているエリさん。洋裁はあくまで支出を抑えたり、現金収入の足しになればいいという認識の上、「5年もすれば外国から安くて質の良い服が入ってくるかもしれない。でも、その時は豆腐作りなど村の人とできる他のことを考えていく」と村に起こりうる変化に柔軟な対応をする必要性をしっかりと理解しているようです。

研修生レポート

アレハンドロ・スミブカイ・バナ (通称アンディ) さん (フィリピン、男性、31才)

- 一 農業研修
- 12. 吉田元一 (岡山県新見市)
- 13. 一色作郎 (兵庫県市島町)
- 14. 真柴三幸 (南光町)
- 15. 大森昌也 (和田山町)
- 16. (株)西日本三菱農機販売 但馬支店、寺田まさふみ (農機メンテナンス研修/出石町)
- 17. 橋本慎司 (バイオディーゼル研修/市島町)
- 18. (株)尾崎食品、とうふ工房"亜蔵" (神戸市西区) <敬称略>

前号でも述べたように、アンディさんは農産物の加工が収入を安定させると考えており、エリさん同様、有機豆腐作りの研修を受けました。短期間でしたが、深夜1時から起きて取り組むなどして頑張り、一通りの作り方は覚えることができました。

また、村でも簡単に手に入る薬品や道具を使ってできる「バイオディ

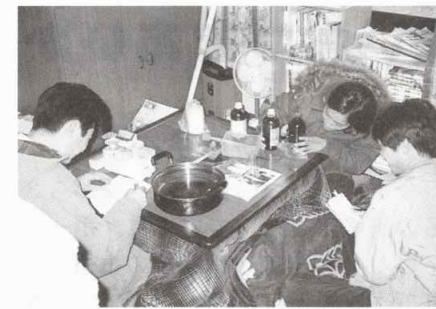
研修生は歯がいい！？ —その2— (インドネシア・タベ村編)

昨年8月にタベ村の食生活、特に砂糖含有食品の摂り方、歯磨きの習慣等について調査してきたのですが、その結果、村では一日を通じて砂糖含有食品を断続的にかなりたくさん摂っていることがわかりました。例えば、子供たちは学校の登下校や遊んでいる時にアイスクリームやアメなどを食べ、大人もコンデンスミルクたっぷりの甘いコーヒーが大好き。喉が渴いたら道端のサトウキビを切って何十分とかじりっぱなしです。

しかし、そうであっても歯磨きが

教養は便秘だ！

第8期国内研修生 坂西卓郎 最近出会ったこの言葉に心を打たれた。そう、知識を吸収するだけで実践に活かさない意味がないのだ。同時に自分は便秘にはなっていないだろうか？とふりかえる必然に迫られた。この半年間多くの素晴らしい人に出会い、その度に哲学を感じ、学びを得た。便秘にしてしまっただけではいけない。結果として私たちの生活を支える為に、世界の多くの人には不平等な生活を強いられているようなものなのだ。問題は海を



まず廃油の汚れ具合をチェック(市島町)

「一ゼル」と呼ばれる廃食用油からディーゼルオイルを作る方法も学びました。アンディさんの帰国後の目標は、村に有機農業の生産者グループを、マニラに消費者グループを作り、仲買人を通さない「提携」システムを立ち上げることです。そして廃食用油を消費者グループのメンバーに集めてもらったり、グローバリゼーションの象徴的存在でありアンディさんは「一度も食べたことがない」というマクドナルドからも廃油だけはタダでもらい、製油し、村にある耕耘機などを動かせればおもしろいと考えています。

きっちりできていれば虫歯にはならないはずですが。こうして歯磨きの習慣を見ていくと、子供も大人も日本の歯ブラシの倍以上もある大きなものを使っていることも気になる点でしたが、歯磨きをするのが夕方か朝の水浴びの時だけという習慣がより大きな問題であると思われました。つまり多くの村人は夕方に歯を磨き、その後夕食を食べ、甘いお菓子とコーヒーを飲み、そのまま寝てしまっているのです。

<続く>

第12回 日韓農民交流

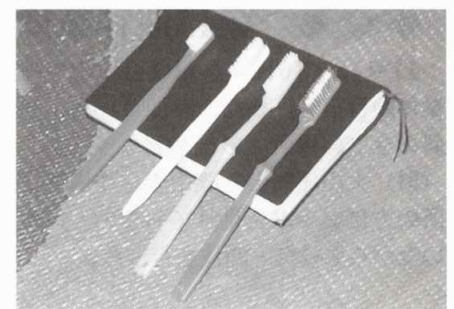
- イム・スンバル 林 承八 (男性・68才・農家・通訳)
- チェ・キョンヨル 崔 敬烈 (女性・54才・農家)
- ソ・ジョンヒ 徐 廷姫 (女性・44才・果樹農家)
- ボク・キファン ト 箕風 (男性・34才・農家)
- イ・ソンウォン 李 盛源 (男性・27才・有機認定機関職員)

◆研修・訪問先◆ 11月6～11日

<神戸市>食品公害を追放し安全な食べ物を求める会 信長たか子、<市島町>市島町有機センター、割烹白鳳及び荒木食品、橋本農園、いちじま丹波太郎、一色農園、<春日町>新しいコミュニティを創造する会、中野農園、春日町国際交流協会、<洲本市>淡路島モンキーセンター、<南淡町>山口農園、<京都市>観光、<神戸市>食と農を考える交流会(神戸学生青年センター) <敬称略>

「どれほど食生活が豊かになったといっても、私達の乗った船が"タイタニック号"という事実を忘れてはいけない。これ以上自己に酔うのではなく、方向を変えるためにみんなで協力する必要がある」という林さんの言葉が、このプログラムの意義を表しているでしょう。

狂牛病や鳥インフルエンザ等、食の安全を脅かすニュースが後を絶ちません。生産者の責任ばかりに目をやるのではなく、消費者の側こそがもっと食に対する関心を持ち、安いものばかりを追い求める意識を変えていくことが重要だと思います。



タベ村の歯ブラシ(一番左が日本のもの)

で水俣や筑豊のことを知らなかった。いや正確に言うに興味を持てなかったのだ。社会の在り方に疑問を感じながらも、私はタイの農村やビルマの難民を、アメリカが引き起こす暴力ばかりを見ていた。社会を良くしたいと願いながらも足元には目が届かなかった。

なぜ私は足元に興味を持てなかったのか？本当は気づいていたからではないか。重荷を押しつけているのが、他でもない「私」だということを。私はこれから「私」と向き合っていきたい。楽しく、ぼちぼちと、を忘れずに♪



布グループの訪問 (2003年10月7日~16日)

PHD協会は14年前からふたつのカレンの女性による布グループとやりとりをしています。2002年9月にPHDとふたつのグループの交流を行いました...

その後の動きは

前回のミーティングで決めたことがどのようにしているのか、この一年間の活動を報告し合いました。売れる商品を作るためのサンプル作りや下手な人への指導などの取り組みは進み、ミシンを使うことができる人も増えていました...

長いおつきあいから見えてきたこと

帰った研修生の今

今までふたつの布グループから3名の研修生を招いています。ポーディさん(99年度)は家族の事情から町で家政婦として働く、ブンシーさん(2000年度)は村で生活をしながら1年に2~3ヵ月町に出稼ぎに行く...

理想と現実

PHDとやりとりを始めたのは14年前。村の様子、メンバー個人個人の状況、お互いの関係、それは日々変化をしています。研修生にも村人にも社会や家族の都合に流される現実があります...

と言われ、悲しかったが妥協してしまっただけで話をしてくれました。私達も同じなのです。社会や家族に左右されるのが現実なのです。その中でも家族や周りの人と共に生きるという視点を持ち、足元でできることに取り組むことが大切です...

(古本妃留美)



訪問時、2週間後に自分の結婚式を控え、大忙しだったムシキグループのリーダー・ベウーさん。「おめでとございます」

◆◆◆ 第13期林業体験合宿~枝打ち~ 日本の山の木を活かす方法 ◆◆◆

11月15・16日、兵庫県篠山市で林業体験合宿を行った。参加者19人、傾斜のきつい場所での作業となったが、(財)大山振興会と篠山森林整備事務所の方にお手本を見せてもらい、戸惑いながらも枝打・間伐を行った。

日本の木を使おう

夜の学習会では、加古川流域森林資源活用検討協議会(以下、協議会)・木材コーディネートの能口秀一さんと建築設計の安田哲也さんから話を聞いた。

協議会では、身近にある山の木を従来の流通に乗せず消費者に直接販売する。そして、その売上げを山の管理費に利用していることを明らかにするよう制度化している。消費者も山に行き、切る前の木を見る。伐採や搬



写真を見せて説明する能口さん

出、製材の費用は消費者の負担だが、合計額は従来のルートで買うのと変わらないらしい。今、日本の木材輸入率は80%に達している。今年度のフィリピンからの研修生の村では、近くにある山が丸裸だ。雨が降ると保水力の落ちた山では対処できず、川に大量に流れこみ洪水が起きて、今では橋げたが残るのみ。木は30年ほど前に皆伐され、日本に輸出されたらしい。他にもこういう地域はたくさんある。最近よく地産地消という言葉聞く。農産物だけでなく、木も日本にあるものを使うことができれば、遠く離れた地の人々に迷惑をかけることが減るのではないだろうか。また安い輸入材に押されて国産材の価格が下がり、山の管理に必要な人件費が出せないでいる。この協議会の制

度では森林所有者に入る金額がこれまでよりも増えるため、人件費を賄える。森林所有者や環境にとって良い条件で、消費者の負担がこれまでとほとんど変わらないならばこちらを選んではどうだろうか。

日本林業再生や熱帯林伐採を止める万策ではないと能口さんたちも言っているけれど、大きな可能性を持つ動きだと思う。

家族に伝えよう

いつも思うこと。林業体験合宿等のプログラムを終えて、「家族や周囲の人たちに伝えていこう、普段の生活の中で自分に何ができるかを考えていこう」との参加者の感想。この思いが根付くように私達も皆さんへの働きかけを続けていきたい。

(寺田栄)

加古川流域森林資源活用検討協議会 http://homepage3.nifty.com/Tets-HP/

私たちが変わるための試み ④ 「日々の幸せ」

横山 千朝 さん

共に生きる社会を...でも具体的にどうすればいいのか。職場、家庭、地域など、活動場所はたくさんあります。足元での取り組みをしているPHDの仲間の思いや経験を皆さんと共有する、シリーズ第4弾です。

▽▽ PHDとの出会い ▽▽

PHDの名前を初めて聞いたのは、タイのスリン県でした。青年海外協力隊としてスリン県プラサート郡にあるタイ政府機関の公共福祉局に赴任して間もない頃で、たまたま知人の知人の知人として紹介されたのが、同じくスリンに住む、元PHD職員の旧姓小松さんこと松尾夫婦だったのです。日本人自体スリンでは珍しいのに、それも夫婦で住んで、NGOにも属してない、仕事というわけでもない、地元の人と農業している、正直驚きました。ただ私の家からとても遠く、なかなか会う機会がなかったのですが、それでも小松さんは、PHDがタイの山岳民族の女性グループ支援を行っていたということで、それに関する会報を郵送してくれました。女性グループ支援は、ちょうど私がタイでやっていたことと重なり、PHDに興味を持つようになりました。私は、公共福祉局に勤務しながら、村の女性とグループを立ち上げ、シルクを使った小物類の作製と販売を行っていたのですが、私は初めての日本人ボランティア、女性達も初めて自分達で商売をするということで、お互い手探りでグループ活動をしていました。楽しく、難しく、そのような活動を行うことによるメリット、デメリットを感じながら、それでも、日本に帰ってきても何かしら関わっていきたくてという気持ちはあり、松尾夫婦の紹介で、PHDに出入りするようになりました。

▽▽ ソディから畑へ ▽▽

PHDの中で、女性グループの自立支援としてタイの布を買付け、日本で販売しているソディというグループの活動に関わりながら、遠くにいながらもタイと関わるのは私にとってうれしいことです。ソディでたまに通ううちに、なんだかよくわからない変わった人達とも出会うようになり、それも結構おもしろく、なんだか知らない人達との話し合いの中にも入っていたり。そこで、何か一緒にしないかということになってできたのが、学童保育所(どんぐりさん)の畑に通って野菜を育てるのを手伝うということでした。

タイの商売用の野菜は、実際は結構葉を使っているらしいのですが、私にとって、食べ物はとてもおいしく、雨水飲んで、鳥絞めて、庭の草や果物とって、なかなか野生的な生活を楽しんでいたので、日本のスーパーのきれいな野菜たちは、帰国後さらに異様に感じるようになっていました。そこに、毎日のようにTVで流れる食の安全性に関するニュース。食べ物って生きる上での原点だし、もっと知りたい。作ってみたい。だからPHDで畑の話が出たときは、飛びついて、どんぐりさんの畑に月1回くらい行かせてもらうようになりました。自分の家でも家庭菜園を始め、家庭菜園を同じく始めたPHDの人々と、自分ちの野菜成長自慢も楽しかったです。家でニガウリが成った時は、うれしくて愛らしくて、写真を何枚もとりました。

▽▽ 畑から ▽▽

畑で楽しいのは、野菜の成長を見ること。種から芽が出て、茎が伸びて実を付ける。ああ、オクラってこんな風に実がつくのかとか、当たり前のことですが、生命ってすごいって思ってしまう。野菜は生きものだったんだと実感する。そして、おいしい!幸せ!タイでの生活もそうだったように、ただ毎日生きていくために行う作業(自分が食べる物を育てて、育てた物を食べる)がとても大切に思える。そして本当においしい野菜を食べると、下手に手の込んだ料理を食べるより幸せを感じる。きっと、PHDはこういうことにずっと前から気付いていて、有機農業にも関わってきたのかなと思います。私がPHDいいなと思うのは、このように人が生きていくための日々の本質的な営みを大切にしていることが伝わってくるからです。

▽▽ 日本の子供 ▽▽

畑に通って、予想外に新鮮だったのは、子供と触れ合うこと。私の月~金お勤め生活の範囲に、小学生はいないので。はじめてどんぐりさんに行ったとき、子供がわーと絡んできて、向こうも多分どう接していいかわから

なかったのだろうけど、じゃれあうように叩いてくるわ、蹴るわ、口は悪いわ。結構ショックでした。私の知っている一番最近の子供たちは、タイの村で、はにかみながらそばに来て、礼儀正しく挨拶をし、大人には絶対的に従う子供たちだったから。きっと、昔の日本もそんな感じだったのでしょうか。小学生がふざけてでも大人のことに叩いてくるのは、かなりショックで、時には、本気で怒ってしまいました。子供の中には、話しかけてもなんだか文句ばかり吐き捨てている子もいるし、ストレスなかなとか、子供は難しい。だから、別に子供が好きで来ているわけじゃなく、畑が好きで来ているのだと思いながら子供と距離をとっていました。それでも、何度か通って名前を覚えていくようになると、少しずつかわいく思えてくるようになってしまいました。まだ全部の子供じゃないけど。

▽▽ この先のこと ▽▽

将来的には、庭付きの家に住んで、畑をして半分自給自足でやっていくのが夢なのですが、庭付きの家に住めるのがいつなのか、まだ見当が付きません。でも、畑以外にも、今から家の生活をシンプルに時間をかけて楽しんでいこうとしています。毎日、土鍋に炭を入れて玄米を炊いたり、天気の良い日は、洗濯を外で手洗いにしたり。もちろん、俗世を離れた山小屋生活を送る決意は私にはなく、それを理想としているわけでもない。映画を見るのも、おいしいレストランに行くのも、たまには買い物も好きだし、旅行に行ったり、それだけのお金も稼ぎたい。毎日新聞読むし、仕事も結構好き。でも、生活の基本はシンプルに、時間をかけ、そしてそのシンプルな生活に幸せを感じていたい。だから、その本質的な部分を確認するかのようになり、どんぐりさんの畑に通ったり、PHDの人々(同じように思ってるであろう人が多いから)に関わっているんだと思います。そして、もっと他のより多くの方がそういう幸せを感じられるように、PHDの活動に関わっていきたくてです。

第22期生紹介（4月上旬来日予定）



アフリタさん（19才、女性、インドネシア）

西スマトラ州タベ村から6人目の研修生。まだ若いですが、村で月一回行われる乳幼児健診のボランティアをするなど看護師からも信頼されています。8人兄弟の3番目。日本での研修テーマは保健衛生、洋裁、有機農業です。



ゾーウィンさん（34才、男性、ビルマ）

ビルマからは8人目、イエボ村からは3人目の研修生です。面接には2002年に続いて2回目の挑戦でした。特技は笛の演奏。日本では、有機農業や協同組合の運営等について学ぶ予定です。



ハイティさん（24才、女性、フィリピン）

毎年3月の比較研修旅行で訪れるガバルドンから5人目の研修生。昨年度のアンディさんなどと同様、現地で私達を受け入れてくれるNGOのボランティアスタッフです。日本では保健衛生を中心に有機農業も研修予定です。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2003年 10月	67件	11,116,192円
11月	71件	6,080,329円
12月	838件	6,484,708円
2004年 1月	153件	2,367,091円
	1,129件	26,048,320円

師走の出費のかさむ中、皆様には年末募金のお願いにお応えいただきありがとうございました。

年末募金期間（11月～1月）の寄附金は例年に比べ件数と金額どちらも増加しました。特徴は個人の方の件数が約100件増えたことです。このことは大きな励みとなっています。

年末募金お願いのチラシはインドネシア・タベ村の帰った研修生の活動と村の様子を紹介し、PHDの柱である研修事業の内容が伝わるように努めました。皆様のご期待に沿うよう使わせていただきます。

過去3年の推移

2001年度	2002年度	2003年度
6,114,477円	6,955,322円	7,826,299円
590件	590件	803件

◆倉庫を探しています

活動が始まって22年。「ものを捨てないのがPHDのよいところ」から「それにしてもものが多過ぎる」と。資料や写真、他団体の広報物などた

っぷりあります。このため事務所が大変手狭になっています。レイアウトを変えたり、できるものは処分したりと努力はしていますが、そこはやっぱり22年分。手強い。多くのボランティアさんに集まっていたくスペースがないことが悩みの種です。

新年度はボランティアさんが集まる機会を増やしたいと思っています。快適とは言えなくても、せめて事務所の中にそのようなスペースを作りたいので、倉庫を探しています。できれば無料で4畳半以上、神戸近郊がうれしいのですが、よろしく願います。

PHD夏のスタディツアー 村の人たちとふれあう旅に 出かけませんか？

研修生の村を訪ねる旅。今年は久しぶりにフィリピンを訪れます。

◇ビルマ（7月下旬・約10日間）

約20万円

◆フィリピン（8月上旬・約10日間）

約16万円

◇インドネシア（8月下旬・約10日間）

約18万円

定員はそれぞれ13名。詳しい日程、参加費は、5月頃決定します。お問合せ、お申し込みは事務所まで。

○月×日のPHD協会

研修生 アンディ 研修の合間の息抜きはテレビのアニメ。ルパン三世、ドラえもん。それとウォークマンで聴く音楽。日本モノではかぐや姫。

職員 納堂 近所の床屋は地域のつながりの薄い都会暮らしの貴重な情報源。どこに空き巣が入ったとか、国際協力を語る怪しい訪問募金の話とか。

国内研修生 坂西 店には行かず身内にしてもらう。何故できるかと尋ねたら「犬の散髪で慣れてるし。」僕の頭は犬の延長線ってこと？

職員 佐々木 東京時代は3800円の散髪代が大阪で千円の看板。店員さんのお勧めの髪型が気に入らず、一回限り。次回から2千円の店に。

職員 藤野 2年前のネパールでしたヘナによる白髪染についてのイマイチの評価に懲り、海外での頭いじりに及び腰。昔は良くやってたのに。

職員 芳田 散髪もさることながら洗髪後のマッサージに喜びを感じる。「気持ちえーわー」と褒めたおし、通常より長めのサービスをゲット。

職員 寺田 タイツアーの道中、女性陣がハマったのがチェンマイの美容院でのシャンプー&ブロー。出来の良さに私も出かけ、約束に遅刻。

職員 古本 ここしばらく通う三宮の美容室。カット中のおしゃべりで仕事を説明。NGOの人と認識はされるも、未だ寄附、会費はいただけず。

研修生 エリ 来日後4kg太る。健康の研修に来て、これはまずかろうと甘い物断ち。6kg減。今は避妊の注射をしていないのが2kg分？

研修生 マウエ 研修旅行で訪ねた小学校で習字を体験。どうせならと漢字に挑戦。ズバリ「氷川」と。大好きなんだと、氷川きよし。

以上、頻繁に散髪する順